

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立天神小学校

■ 学校の共通目標 【HP公開用・様式1・令和7年6月】

授業作り	重点	・タブレット端末の活用による学習活動の充実。 ・児童一人ひとりの知的好奇心を刺激する授業づくり。 ・協働的な学びの推進。特に、「対話的な学び合い」の追求。
環境作り		・日常的な言語活動の充実。(伝え合う活動、ペアトークなど) ・基礎学力の向上を目指した常時活動。(算数の授業開始3～5分を活用した計算練習) ・学びのユニバーサルデザインを生かした授業。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・自分の思いを教師や友達に積極的に伝えようとする児童が多い。 ・出し抜けに話し、人の話を遮ってしまうことがある。最後まで聞く力を付ける必要がある。 ・ひらがな、片仮名、漢字を正しく読んだり書いたりすることができるよう、繰り返し練習する必要がある。 ・5、10など数の構成を理解し、計算できる力を付ける必要がある。	①タブレット端末、デジタルドリル、プリントを活用し、繰り返し練習する。 ②机間指導や個別の声かけを毎時間実施する。 ③ノートの活用を進め、きめ細やかなノート指導を行う。 ④具体物の操作を取り入れた学習を推進する。 ⑤スピーチやペアトークなどを日常的に取り入れ、言語活動の充実を図る。 ⑥読書を奨励する。
2 学 年		・自分の考えを教師や友達に積極的に伝えようとする児童が多い。 ・話の内容を落とさず、最後まで聞く力を付ける。 ・拗音、促音、片仮名、漢字などを正しく読んだり書いたりすることができるようにする。 ・正確に計算する力を身に付けるとともに、文章問題を理解する力を付ける。	① ペアトークやスピーチなど、日常の言語活動の充実を図り、話し方や聞く力を付ける。 ② デジタルドリル、プリントなどを活用し、習熟を図る。 ③ 漢字小テストを実施する。 ④ 一位数の足し算、引き算のプリントに繰り返し取り組み計算力を付ける。

3 学 年	・既習漢字を使わずに文章を書く児童が多い。 ・話の内容を落とさずに、最後まで聞く力を付ける必要がある。 ・基礎的な計算の仕方を確実に理解し、素早く正確に解くことができる力を付ける必要がある。 ・文章問題を正しく理解し、正しく答えることが必要である。	・既習漢字を正しく使い、文章を書く力を身に付ける。 ・話の中心に気を付けて聞く力を身に付ける。 ・四則計算など基礎的な計算を確実に理解する。 ・文章の意味を正しく読み取る力を身に付け、問題に取り組む。	①ノートの活用を進め、きめ細やかなノート指導を行う。 ②漢字小テストを実施する。習熟度に応じて再テストを行い、既習漢字を覚える。 ③話の内容を理解しているか確認しながら学習を進める。 ④家庭学習や朝の時間などを使い基礎的な計算の習熟を図る。 ⑤タブレット端末、デジタルドリルを活用する。
4 学 年	・基本的な計算に課題がある。 ・気付いたことや分かったことなどを書くことが苦手である。 ・家庭学習を毎日提出している児童は6割程度である。	・整数の四則演算が確実にできるようにする。また、毎時間授業のねらいを達成できるようにする。 ・自分の考えをもつことができるようにする。 ・家庭学習を毎日行うことができるようにする。	①デジタルドリルを活用し、計算の反復練習を行う。更に、かけ算九九の暗唱を全員できるように個別指導する。 ②毎時間問題演習の時間を設け、児童の理解度に応じた個別指導をすることで、学習内容の確実な定着を図る。 ③毎時間自分の考えたことを記述する。 ④対話的な学び合いを通して、友達の考えを参考にしながら自分の考えを書くことができるようにする。 ⑤毎日、全員が家庭学習の提出をできるようにし、家庭学習の習慣化を図る。
5 学 年	・算数科では、日常の学習において、基礎的な知識・技能の習得に課題がある児童が6割程度いる。 ・国語科では、日常の学習において、漢字や言語習得についての知識の習得に課題がある児童が4割程度いる。 ・学習活動に集中して取り組	・算数科では、ワークテストの基礎的な知識・技能の問題の点数が80%程度の児童を5割程度にする。 ・漢字テストや言語の最終的な点数が80%程度の児童を7割程度にする。 ・学習活動を通して気付いたことや考えたことなど、授業開始時と終了時の自己の変容を認識できる児	① 継続的に「相手の話を聞くこと」についての指導を徹底するとともに、よく聞くことのできている児童を価値付けて学級全体に広めていく。 ② 知識習得のためにワークシート等を定期的に繰り返し実施する。

	むことのできる児童は学級の6割程度の印象である。	童を8割程度にする。	③ タブレット端末、デジタルドリルを活用する。 ④ 児童の実態や学習内容に応じて、学習活動の行い方や時間の設定を調整する。特に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して、学習活動を計画する。
6 学 年	・算数の知識・技能（基本的な計算の仕方など）は向上したが、思考力が低い。（ワークテストの結果、7割程度ができていない） ・国語の「読む」「書く」力が低い。理科・社会のテストでも問題文を正しく読んでいないための誤答が非常に多い。 ・全体的に家庭学習の習慣が付き、漢字と計算の力は伸びてきている。	・教科書やドリルの基本問題に加えて、応用問題も自力で解けるようにする。 ・しっかりと読む習慣がついている児童とそうでない児童の差が大きいため、個別に読みの指導をして文章を正しく読み取れるようにしていく。 ・6年生の漢字の学習だけでなく、小学校で習った漢字を繰り返し復習していく。	① 計算ドリルの宿題に加えて、応用問題の課題に取り組ませていく。間違えた問題を繰り返し解く習慣を付ける。 ② タブレット端末、デジタルドリルを活用する。 ③ 週に1回程度、作文と読み取りプリントを家庭学習として出す。読書の時間に図鑑などではない本を読むように声をかける。 ④ 毎週木曜日に漢字の小テストを行い、満点になるまで再テストをする。 ⑤ 計算力を高めるために算数の時間にタイムトライアルを実施する。計算の遅い児童にはプラスの課題に取り組ませる。